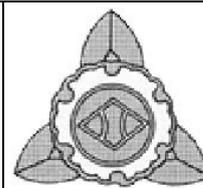


小須戸小学校だより

NO.8

令和5年3月17日(金)発行



「できない」＝「可能性」

校長 河野 健一

私が小学一年生の時、引き算の意味が分からず、テストで引き算の問題が一問も解けなかった思い出があります。また、二年生のときには、掛け算九九がなかなか覚えられず、困った思い出もあります。そして、高学年の時には鉄棒で逆上がりができませんでした。このほかにもたくさんできないことがありました。しかし、引き算の意味が分かり、引き算が解けるようになったとき、九九の覚え方を工夫し、掛け算の問題ができるようになったとき、逆上がりのコツをつかんでできるようになったときは、今でも記憶に残るほど感動したのだと思います。そして、小学生の頃できなかった算数は、中学生では得意教科になりました。また、逆上がりができなかった私は、中学生で逆上がりを克服し、大学では体育を専攻するまでになりました。

今できないことは課題です。その課題は必ずできるようになると信じれば楽しみになります。できないことがいっぱいあるということは可能性がいっぱいあるということです。自信とは自分を信じること。いつか必ずできるようになると自分を信じる。それが成長へとつながるのだと思います。

反対に、できないと思ってしまうとどうなるか。こんな実験例があります。電流を通した鉄条網の中に、犬を閉じ込めます。犬は逃げようとして何度も鉄条網に触れ、そのたびにビリビリと感電します。それでも諦めずに何回か逃げようと挑戦しますが、やがて、もうそこからは逃げられないという条件付けがされてしまいます。そうすると、たとえ鉄条網を外しても、犬はそこから逃げなくなります。人間も「できない」という過去の条件付けが自分の能力を抑えていることが多いようです。だから、今はできなくとも、これからそれを解決できる可能性があるると、楽しむ気持ちが大切なんだと思います。

あるテレビ番組で「わたしはできる」と言葉にして唱えていると、不思議と困難と思えたこともできるようになったという話をされていた方がいました。また、昔はできないと思われていたことも今はできるようになっていることもたくさんあります。それは、できると信じて進んできたからではないでしょうか。まだまだ、「可能性」はたくさんあります。これからも「可能性」を楽しんでいきたいものです。